



2012/13 Weekly Bulletin

国際ロータリー第2790地区第3分地区B

市原ロータリークラブ会報



事務局

市原市五井 5584-1

TEL: 0438-38-3535

第2372回例会

2012年9月19日(水)

SAA/山田会員

会報担当篠田会員

例会場

五井グランドホテル

★点鐘 市原RC会長 小川長二

★ソング 手に手をつないで

★プログラム 卓話 地区新世代奉仕委員長
津留 起夫

主議題 『新世代について』

Peace Through Service

『新世代のための月間』

会長挨拶 市原RC会長 小川長二

皆さんこんにちは。連日暑い日が続いておりますが、もう彼岸を迎える時期にあり、少しずつ涼しくなってくるのでしょうか。

さて、先日、情報研究会が行われ、職業奉仕についての話がありました。私は、職業奉仕について十分に理解できていなかったことを痛感いたしました。ただ働くことで人に利益を与えるというだけでなく、奉仕の精神を持って働くことで仕事が生きてくる。それをもって、誰かを救うことができる。これを職業奉仕というのでは?と、私なりに解釈いたしました。しかしながら職業奉仕についてはこれからも勉強が必要だと思っております。

話は一変しますが、今月号の「ロータリーの友」の中で、大変勉強になる記事がありました。今月のRI目標にもなっております「新世代のための月間」に関連した記事です。その中で、ロータリークラブが若い世代を必要とする理由や、若年層のロータリークラブに対するイメージがどのようなものが書かれていました。

やはり若年層からは「年齢層が高く、金持ちの集まり」といったようなイメージを受けているようです。しかしその一方で、海外のクラブでは多くの若年会員が活躍しているという内容もありました。グローバル社会において成功している若き成功者達のパワーを大いに生かして奉仕活動を広げているクラブは世界中で増えているようです。今の日本にも若くして成功している人材は沢山います。私たちはロータリークラブや奉仕の素晴らしさを次に伝えていくことの奉仕活動の一つになります。これから先、多くの若者が奉仕活動に興味を持つよう、私たちにもできることが必ずあります。

若年層勧誘のためには?皆様の意見を頂戴たく思います。

よろしく願いいたします。

■幹事報告■

□国井忠様が正式に会員となりました。

□10月1日より東電姉崎の所長増田様が交代される為、会員の交代があります。
新入会員候補添付しましたので、ご確認の程、よろしくお願い致します。

□来週9月26日例会は、早昼12:00~に変更しています。



会長 小川長二



幹事 長田博正

★お客様紹介 本日、お客様はいらっしゃいません。

★委員会報告

・地区青少年交換事業について

地区青少年交換事業での当クラブの受入れ学生であります、Kylie Wichtnerさんが来日しまして、ホストファミリーをお願いした派遣学生であります梨本有美子さん宅にお預かり頂きました。しかしながらその後、梨本家より青少年交換事業参加辞退の申し出がありまして、会長、幹事と相談の上、これを受理し推薦取り消し願を地区に提出しました。それに伴い、ホストファミリーを西村美和子会員にお引き受け頂き、Kylieさんを8月30日から西村家に移しました。派遣は取りやめとなりましたが、受入れは1年間続きますので、どうか会員の皆様には一層のご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

委員会報告

・斎藤榮志会員

こんにちは。ホームクラブは本当にいいですね。地区委員会でいろいろなクラブにお邪魔しますが、ここに来るとホットします。今日は、新世代月間となっておりますのでそれにちなんだお話をします。

5大奉仕部門になる前は、社会奉仕の中に新世代部門が入っておりました。年齢で区切りますと、12歳から30歳までが、地区新世代奉仕委員会に係るプログラムでの年齢ゾーンになります。

RIは毎年9月を新世代のための月間としています。「Every Rotarian an Example to Youth」、私は「すべてのロータリアンは、若者の模範たれ」としております。どうか若者に関心を持っていただきたいと思っております。

このような物を作って参りました。この4つのマークはご覧になったことがあると思いますが、それぞれ4つのプログラムマークになっております。この中でインターアクトは、1962年にRIより承認されており、今年で50周年になり一番古いプログラムです。



ローターアクトは1968年、青少年交換プログラムが1972年、RYLAが1974年にRIより承認されております。現在インターアクト・クラブは16クラブで270名のインターアクターが活躍しております。このプログラムの中で提唱事業としてあるのは、インターアクトとローターアクトです。

私達、地区委員会の役割は何か。よく言われることは、「地区委員会はクラブにプログラムの実施を押し付けているように思える」と。ここで考えてみましょう。

地区委員会は、それ自体が奉仕をするところではありません。地区とクラブの間には、組織的には明確な溝があります。地区委員会はプログラムの強制をしてはいけません。「プログラムに参加をしませんか」と強く勧めるだけです。たとえば次のようなことです。スーパーや商店街の店先に、食材やレシピが置いてあるように、地区委員会は、各クラブに対しプログラムを陳列し、更に言えば出来るだけおいしそうに並べるのです。そして手に取ってもらう、参加してもらうという立場です。「参加する」と手を上げたクラブに全力をつくして支援するのが地区委員会の大切な役割なのです。

今年の7月8日に、全国34地区の青少年交換委員長会議がありました。多くの委員長さんは「この交換プログラムが1番」と胸を張って言い切るのです。私は、ロータリーの数あるプログラムに優劣などないと思っておりますが、なぜ彼らはそう言い切るのでしょうか。それは、青少年の好ましい変化を、自分の眼で見、体験しているからだとわかりました。

ここに写真をお見せしましょう。



蝶の羽化です。この写真にあります蝶の羽化を、頼りないように見えた高校生が、1年間を経て帰国して遅くまた派遣先の言葉を流暢に話す、まさにその「変態」を全国の青少年交換委員長は、体験しているからなのです。そして、地区委員会が推し進めているプログラムそれぞれには、時間の差こそあれこのような体験をする機会が隠されているのです。

このプログラムは、多くのロータリアン、クラブ、学校やボランティアの方々の支えがなければ成り立ちません。この支援の輪が、一人の若者を育てていくのですが、ロータリーが行う派遣が、他の団体と違う点は、若者が親善大使として派遣され、その上で国際理解を養うことにあります。単なる語学研修ではないのです。スキルとしての言葉を覚えることはその副産物なのです。異文化を体験させ、一回り大きくなってほしい、殻を破ってほしいという期待を持って送り出しているのです。

ご存じのように原始の時代では、火を起こすのに木と木の摩擦熱で起こしました。新世代のプログラムでは、せっかく起きた火が起こったと安心しているといつの間にかその火が消えてしまうことがあります。この火を絶えさないように摩擦熱を維持しなくてはなりません。これが一番大切なことで、往々にして忘れがちな点です。

ここで、「ファーストペンギン」という話をします。流水の上にペンギンの群れが立っております。しばらくするとその内の1羽が飛び込みます。すると今までしごみをしていた多くのペンギンたちは、我さきに海に飛び込みます。この最初に飛び込むペンギンをファーストペンギンというのだそうです。人間界では、それを、勇気あるリーダーとほめたたえるのか、無鉄砲とたしなめるのか意見が分かれるところですが、はっきりしていますのは、誰かがそのとっかかりを付けなくてはならないことなのです。この市原RCには、そのファーストペンギンたるロータリアンがたくさんいらっしゃ

います。我こそは、ファーストペンであると自覚していただき、新世代の奉仕にご活躍頂きたいと思っております。



先月の8月1日から4日までインターアクトの国外研修が行われました。台湾の台南と台北を訪れております。台北市北部のRID3520にホストをしていただきました。今までは、韓国釜山市や昌原市馬山地域に行っておりましたが、得居ガバナーのお勧めもあり台南市郊外の烏山頭（うさんとう）ダム設計者八田與一氏の墓参り、「台北市私立愛愛院」の慰問を行っております。八田與一氏の偉業については、いろいろ資料が出ておりますのでここでは割愛いたします。



お話したいのは、「愛愛院」のことで。私は、この「愛愛院」のことは、ホストクラブからきて初めて知りました。インターネットで調べますと、愛知淑徳大学大学院現代社会学科国際社会コースの栃木千鶴さんの論文が見つかり、その内容で興味深いところをお話します。（ここで御断りしておきます。「乞食」という言葉は、今は差別用語とされています。しかし、研究論文を尊重して、そのままの使用いたします）。創設者施乾は、1899年（明治32）、台北県淡水生まれ。台北工業学校卒、台湾総督府商工課「技手」となり、将来のエリートを約束されていた。しかし、2年余りで台湾総督府を辞め救済事業に着手し、「愛愛寮」を創設したが心労のため46歳（1944年）の若さで一生涯をおえた。その後事業を継承したのは、日本人照子である。施乾は、最も生活に困窮している乞食村に居住し、実態把握に努めた。そして乞食が同じ人間であるのに、人間として生活が保障されていないことを強く感じた。そのため彼らに人間的な生活ができるように方策として彼らに授産を行い、彼らが社会で自立できるように「愛愛寮」を運営した。彼らに「独立自営の精神を涵養」することを愛愛寮経営の理念とし、乞食撲滅のために彼は一生をかけたのである。

ロータリーでは、社会奉仕のあり方を示す一つの話があります。「魚が取れない漁民に、魚を寄付するのではなく、網と漁の方法を教えなさい」。これは何もロータリーの専売ではなかったのです。この論文の中に次の記述があります。「乞食は防止すべくして、救済すべきでない」「人々の1銭2銭という喜捨」がなかったならば「乞食は存在するはずがない」としています。つまり「乞食は防止すべくして、救済すべきでない」は、「利己」と「利他」との関係において、「自愛」と同じく乞食を心から「他愛」し、乞食の防止のための喜捨をすべきである。

過去、ホームレスの収容施設であったのですが、現在では、台湾の高度経済成長に伴い日本と同じく高齢者の養護施設「私立愛愛院」として運営をされております。インターアクトの生徒は、「日本語で話しかけてもらった」という驚きの感想を述べております。今の生徒にとって、かつて日本が台湾を統治した50年は、歴史上の話として認識しているようですが、お年寄りが片言の日本語で、生徒に話しかけられた現実を「驚き」のほかにはどのような感じ方をしたのでしょうか。

新世代は、我々にとって希望の光、希望の矢です。それを妨げたり、折ったりしてはならないのです。マザーテレサは言います「愛情の反対は憎しみではありません。無関心なのです」。ご静聴ありがとうございました。

(学びて奉仕)



☺ニコニコ ☹ソーリー

- 津留起夫会員
卓話をさせて頂きました。新世代に関心を持ち続けましょう。
- 山本順也会員
津留地区委員長、本日は新世代月間にちなんだお話をありがとうございました。
- 小川会長・長田幹事
津留会員、卓話ありがとうございました。
新世代月間がんばります。
地区大会ゴルフでは、バスクロ目指して頑張ります。

前々回出席率 80%
本日出席者 33名
本日欠席者 12名
本日出席率 73.33%